



Art. Culture. Tradition

44-45

[発行] 札幌市教育文化会館

アクト第44・45合併号

JULY 2023

幽

能の宇宙

玄

幽玄 —能の宇宙

日本の伝統芸能である能には250以上の演目があります。元々はその沢山の演目が主人公の役柄で「神・男・女・狂・鬼」の5つに分類され、上演の際は始めに必ず行われる「翁」と、各分類から1演目ずつ行う「五番立」と呼ばれる演目が、1日かけて行われていました。そのような能の世界を、舞台とは違った形で表現しようとの試みで「神・女・狂」の能面と草花のコラボレーションを3年半前にact32・33号で特集。その好評を受け、今号では残りの3つ「翁・男・鬼」でのコラボレーションが実現。更に広がっていく能の世界をどうぞお楽しみください。

Photo : Hiroo Takatsu [STUDIO TAKE 2]





能面×花

翁面

(おきなめん)

白式尉 (はくしきじょう)

[能面解説]

翁の別名で白く彩色されており、黒色に彩色された黒式尉と区別している名前である。面の特徴は「ぼうぼう眉」「切り顎」「への字の目」など。翁系の面は田楽の時代以前からあり、五穀豊穣の祈祷や家門繁栄などの神聖な祝儀に使われてきた。現代の能楽では、鏡開きや新春初能の祝事の時にのみ使われる。

[フラワーコンセプト]

笑顔の老人ということがとても印象的で、どこか優しそうな空気感を草花でも感じてもらえばと考え、たくさんの色を使わずに白とグリーンを基調にしました。そこへ黄色の花をプラスして優しい世界のアクセントになっています。眉の形がとても特徴的なので、その形をモチーフに蓮の葉をベースにしました。



okinamen

男面

(おとこめん)

中将 (ちゅうじょう)

[能面解説]

平安初期の歌人、在五中将在原業平を表わした面である。人間の真実や愛情の美しさを詠んだ彼の歌は、王朝の人々の憧れ的だった。彫りの形は若い女面と似ており、王朝の貴公子らしい優雅さにあふれている。注目すべき眉間にある2本の皺は、平家の公達としてたどる悲運の末路を暗示しているかのようである。

[フラワーコンセプト]

歌人・貴族がモデルと聞き、高貴さを纏う人という印象から色のイメージは青や紫でしたが、これらのやり方次第でポップな世界観になりすぎてしまいます。流通する花は青が断トツに少なく選択肢がありません。植物用の塗料を試すなど試行錯誤しましたが、最終的には紫陽花が求めていた青を表現してくれました。



otokomen

鬼面

(きめん)

鼻瘤悪尉 (はなこぶあくじょう)

[能面解説]

鬼神系の鬼の中で最も恐ろしい形相の老人面である。瘤状に突起した鼻、眉間に鋭く深い皺、額の浮出た静脈、そして庇状の眉に半眼の瞳など凄みがある。彫りの深い、日本人離れした異邦人の面立ちで、怪異さと強い力感がみなぎっている。「白頭」(しろがしら)をつけて演じる「鞍馬天狗」は迫力がある。

[フラワーコンセプト]

「怖いのではなく強い」「異國・異次元の神のような存在」と聞き、そこを表現できればと考えました。苔のついた梅の枝は強さの象徴として。カビの生えた薔薇もあえて使いました。普段は認められない存在も異次元の存在である鼻瘤悪尉と一緒にあれば認められるのではないかでしょうか。



kimen

見た人に様々な感情を想起させる能の世界。そこからアーティストはどのようなインスピレーションを受けるのか。能面作家の外沢照章さんが打った能面から着想を得て、フラワーアーティストのYANASEさんが草花で能の世界観を表現するコラボレーションの第二弾。今回選ばれた三つの面とフラワー・デザインについてお二人に解説してもらいました。

ARTIST PROFILE



[能面作家]

外沢 照章
(そとざわ てるあき)

仕事をしながら42歳から面を打ち始める。現在までに打った能面の数は71種・109点。2009年より小樽市能楽堂に隣接した小樽市公会堂にて、毎年個展を開催している。



[フラワーアーティスト]

YANASE

イベントでの装花演出やブランド・コラボレーションなど多数手がける。「想像を超える無形の美を追求する」をコンセプトに日本の[鏡]・[凜]を追求。

Interview | 再び実現したコラボレーション。挑む二人の思いとは。

— 前回のactをご覧になった方からどんな反応がありましたか。

外沢: 沢山反応がありました。今でもあります。生花と能面がコラボレーションするなんて「そんなことができるんだ!」と驚く人が大勢いました。あのようなことをしたのはactが初めてだったんじゃないでしょうか。

YANASE: プラスの反響ばかりですね。私が円山でやっている生花店に来るお客様からも嬉しい反応を沢山頂きます。今、専門学校でも教えるのですが生徒に見せると「怖い印象だった能の見方が変わった」という意見が多く、授業で能面を題材にすることもあります。

— 今回はどんな思いで取り組みましたか。

外沢: 能の演目は250種類以上あり翁、神男女狂鬼という6つのジャンルで区分されています。前回はそのうち3つが掲載されたので、残された3つもいつかやれたらと思っていました。なので「待ってました!」という気分ですね。能が好きな方は同じような気持ちで待っていた人も多いのではないかでしょうか。

YANASE: 前回は「これで正しいのだろうか」という疑問を持ったまま挑んでいましたが、作品を見た方達の感動している様子を見て正解を探さなくても良いんだと思えるようになりました。今回もぼんやりとしたイメージで現場に入ったのですが、前回と違いフワフワした状態でも安心して挑めました。北海道では伝統芸能からはイメージできないような草花が沢山あります。自分の役割は、その時そこでしか手に入らない

い草花を使うことで、過去から続く伝統的な能の世界に現在性を今に繋ぐことなのかもしれません。

— actをご覧になる方へ一言お願いします。

外沢: やはり根底には能の舞台を観てもらいたい、楽しんでもらいたいという思いがあります。教文さんは実際に能を楽しむ機会を作ってくれています。まだまだ能は多くの人にとて遠い存在かもしれませんのが、actを見たことをきっかけに舞台を観る人が増えてくれたら嬉しいですね。

2人のコラボレーションは8月3日からSCARTSで開催される「能楽展2023」でインスタレーションとして展示されます。写真とはまた違った形で行われるコラボレーションをお楽しみに。